

第203話 俳額①

中山町歴史散策

俳額は、俳諧仲間の句作向上を願って、長方形の木版の額に句を寄せ、撰者の句を添えて神社に掲額したものといえます。

俳諧が次第に一般庶民を巻き込むようになると、句集としてまとめられる一方で、より向上を切望し、歌仲間との絆を強めようとして最寄りの神社に俳額を奉納する風習が現れました。

文化・文政時代以降には、各地の神社の境内で句会が開かれることも多く、作品に、撰者や評者が加除訂正を行って、一人一句を掲げていき、中には、投句の数が多く、それに合わせて掲げる俳額も大きくなっていくものもありました。

町内の俳額としては、岩谷十八屋観音堂（嘉永4年 1851年）、柳沢石子神社（安政2年 1855年）、金沢御嶽神社（安政2年）があります。そのうち御嶽神社の俳額は筆笥の横板を用いたもので、今では、字体がほとんど見えないほどの傷み具合となっています。

俳額に掲句された作者を見ると、近隣諸村からの参加者も多く、俳人の数もさることながら、俳句を通して往来の盛んであったことがわかり、交流の広さに驚かされます。次の号からは、町内に残る俳額について見ていきます。

【語句の説明】

掲額：表彰状や写真、色紙などを額に入れて、高いところに掲げること。またはその額のこと。

※引用 中山町史 中巻

第10章第3節
文芸と美術工芸

私たち地域おこし協力隊です！ No.69



みなさん、こんにちは。地域おこし協力隊の高橋です。

そういえば最近、去年あったマイナポイントのキャンペーンでキャッシュレス決済を始めてみた方の中で、そのまま使い続けている方はどれくらいいるのか、と気になりました。便利だったのか、面倒だったのか、人それぞれ感じ方が違ったのかなと思います。

正直、新しいこととか興味がないことを始めようとする時って、ものすごく面倒くさいって思いますよね。でも意外と、始めてみたら楽しいとか、実は便利だったとか、良い感じになることも結構あったりします。

スマホやキャッシュレスも、使ってみないとわからないことがたくさんあります。「面倒くさいから使ってない」ではなく「使ってみたけれど自分には合わないから使ってない」というように、「選択の幅」が少しでも広がるといいなあと思っています。



高橋 圭哉

出身地：宮城県岩沼市
趣味：けん玉、
アニメ鑑賞



●協力隊への問い合わせ先● 高橋 ☎662-2223（総務広報課）